

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170500237
法人名	医療法人 加茂医院
事業所名	グループホーム やすらぎの丘
所在地	伊万里市大坪甲2269-6 (電 話) 0955-22-9131

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目 1224番2		
訪問調査日	平成 19年6月26日	評価確定日	平成 19年8月7日

【情報提供票より】(平成 19年5月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算 16人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(5月18日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低 72 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 加茂医院 高瀬歯科医院 世戸眼科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム やすらぎの丘は、伊万里駅から車で8分の自然に囲まれた閑静な住宅地にあり、自由に散歩できる庭や畑も設けられている。建物は、安全面、自立支援の生活環境に配慮されたバリアフリー住宅であった。地域との交流に積極的に取り組み、入居者が楽しみをもって日常を過ごされるよう、昔懐かしい催しが毎月行われており、「まごころ、やすらぎ、おもいやり」の理念のとおり、一人ひとりのペースを大事にした支援が行われていることが伺えた。また、スタッフ間の意志の疎通が十分で、入居者へのサービスの質の向上のための意見交換も活発に行われる体制が整えられていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の結果を基に改善点を見出し、全体で協議し、意欲的に取り組んでおられた。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価で日常のサービスの再確認を行い、全職員が見直すべき点を掌握しておられた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	サービスの質の向上に繋がる意見を十分に出し合い、具体的な介護サービスに反映されていた。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情や意見等があれば直ぐ聴き取りを行い、職員全員への申し送りで周知がはかられていた。また、入居者の日常の様子は、毎月の請求書送付の際に、定期受診の結果も同封され、健康、生活の両面を家族に知らせ、意見や気付きを収集する仕組みをつくっておられた。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区のクリーン作業、小学生の挨拶運動、地区の夏祭り、市主催の行事等に参加されていた。また、小学生の慰問も行われ、地元の人々と交流に努められていた。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「まごころ、やすらぎ、思いやり」を理念としてサービスが提供されていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に、理念と認知症介護の原則を唱和して常に理念を共有し、その実践に向けて日々取り組まれていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区のクリーン作業、小学生の挨拶運動、地区の夏祭り、市主催の行事等に参加されていた。また、中学生の職場体験を受け入れたり、小学生の慰問も行われ、地元の人々と交流に努められていた。	○	地域の老人会等との交流を深められ、更に地域との交流が深められるよう取り組まれることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一部にとどまることなく全体の取り組みとして、スタッフ各自に自己評価を行って意識を高められていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	スタッフ会議で評価や報告が行われ、意見や問題点がある場合は提議がなされ、参加者の意見を聞き、サービス向上に活かされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の長寿社会課等に積極的に相談を行って、サービス向上に取り組まれていた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求にコメントとして日頃の様子や特記など報告がなされ、定期受診の結果も同時に送付されていた。金銭管理も家族に帳簿を見て頂いたうえで確認印を頂く仕組みがつけられていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が面会に来られた際、意見等があれば直ぐ改善し、職員全員への申し送りで周知をはかられていた。	○	今後、多くの家族から意見が出るような工夫を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要時の応援はあるが、職員の移動はなく固定されていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修等には積極的に参加されていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりやサービスの質を向上させていく取り組みとして、介護支援専門員連絡協議会に入会し参加されていた。	○	同業者同士の連絡会や意見交換会等を開催され、相互の連携が図られるような取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験的に宿泊したり、日中ホームで過ごしてもらいなど、職員や他の利用者、場の雰囲気に慣れてもらえるよう家族等と相談しながら行われていた。また、本人の状況を見ながら利用開始後も家族との縁が突然途切れない様に、家族と連携し、徐々に馴染みながら利用できるように取り組まれていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のできる範囲内で希望される役割をもたれていた。また、昔話などを積極的に伺うなど、ともに過ごす関係を築いておられた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を十分に聞き、小さなことでも聞き漏らさないように努められていた。また、面会時間の自由と家族の方の心配や不安等も伺い、一人ひとりの思いや暮らし方の希望に添うよう、取り組まれていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常会話の中から本人の意向を聞き、本人が目標とされていることや、困難点を援助計画に掲げ、全スタッフが把握できるように実施表でチェックが行われていた。	○	利用者本位の計画とするためにも、作成段階で本人の意向を把握し、家族や関係者の話し合いや意見を記録される事が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は3ヶ月から6ヶ月での見直しがなされていた。また、月1回スタッフ会議が開かれ、見直しの必要がないか検討し、変化が生じた場合は必要に応じて現状に即した新たな計画の作成がなされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	昔やっていた農作業等をホームの菜園でされることや、受診時の外出支援が行われるなど、要望に応じ柔軟な支援がなされていた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	症状に応じて専門医、かかりつけ医への受診がなされ、月1回の定期受診も実施されていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	文書として整備はされていなかったが、ホームでの対応が可能な範囲を示し、医師・家族等と話し合いを行い、対応方法と方針を共有されていた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	状況を理解し利用者の方より視線を低くし、ゆっくりとした対応や言葉かけがなされていた。個人情報の取り扱いも注意深く行われていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本は本人がやりたいことをやってもらう事で、見守りが十分になされ、一人ひとりのペースを大切にされていた。必ず言葉かけを行ない確認してから行動に移すよう、支援がなされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のものを取り入れ、好み等を考慮しながら減塩食に努め、調理にも関わってもらいながら食の楽しみをもった日常に取り組まれていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には2日に1回の入浴であるが、毎日の対応もされていた。一人ひとりの希望に合わせて、ゆっくりとくつろいで入浴して頂くよう、タイミングをみて声かけがなされていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	紙芝居、アコーディオン演奏等、懐かしい催しが毎月行われ、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう工夫されていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や庭の草むしり、花の苗を植えたり、買い物に出かける等、敷地内や近辺の外出は日常的に行われていた。	○	入居者の思い出の場所など、個別の希望に応じた外出支援など、今後の取り組みが期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解され、日中の施錠はされていなかった。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練が実施され、地域の方々へは緊急時の支援についての依頼文書が出されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立、食事摂取量、水分摂取量の記録をとり、一日を通しての把握がなされたうえで、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援がなされていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには生活感、季節感が取り入れられた飾りが施され、四季の花が飾られる等、工夫されていた。また、入居者が作られた貼り絵や習字、絵、俳句なども飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気以外は持込に制限は無く、自宅で使われていた家具、寝具等、愛着のある馴染みのものが持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう工夫されていた。		